

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(小53) 長崎市立(西山台小)学校

1 教育目標

心豊かでたくましく、夢に向かって挑戦できる子どもの育成
学びいっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい

2 学校経営方針

- 目指す子ども像
「学びいっぱい」……進んで学び、自分の考えを表現できる子ども
「やさしさいっぱい」……礼儀正しく、思いやりのある子ども
「元気いっぱい」……体を鍛え、粘り強い子ども
- 目指す教職員像
・児童に対する「教育愛」があふれる教職員
・仕事に対する「情熱と使命感」を抱く教職員
・学び続け「専門性と協調性」を高める教職員
- 目指す学校像
・子どもが行きたいと思う学校
・保護者が通わせたいと思う学校
・地域が支えたいと思う学校

3 重点目標

- 心の教育の充実……支持的風土・自治的風土の醸成
- 生活指導の充実……ルールを守る子どもの育成
- 学力向上……「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランス、学習規律・訓練の徹底、分かる授業の確立
- 体力の向上……体育科の授業の充実、外遊びの奨励、年間を通した運動の実施
- 特別支援教育の充実……一人一人の個性が輝く指導・支援体制の確立
- 地域との連携……学校と家庭・地域の連携の推進
- 教職員の働き方改革……働きやすい（働き甲斐のある）職場環境づくり

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保 護 者	教 職 員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	92%	91%	92%	「教育目標」「学校の雰囲気」とともに3者が共通の思いをもって取り組んだ結果だと考える。しかし、校務に関しては、低評価となっている。分掌の見直しやICT活用による業務効率化などを進め改善していく。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	91%	90%	92%	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			69%	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			38%	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	90%	91%	69%	教職員一人一人が授業や委員会活動などを通して、指導や児童の取り組みの評価をしている結果だと考える。しかし、教職員と児童・保護者と評価の差がある。これからも学校としての取り組みや児童の様子、経営方針などを伝えていき、差を埋めていく。
		挨拶をよくしている	78%	90%	85%	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	81%	82%	75%	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	88%	86%	100%	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	91%	82%	100%	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	99%	90%	77%	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	88%	95%	77%	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96%	89%	100%	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	84%	81%	92%	昨年度と比較し、「地域愛」における数値が約10%上がっている。これは、地域に関する人やものに関する学習を地道に続けた結果だと考える。しかし、家庭学習の習慣について児童と保護者・教職員の意識に隔たりがあるため、児童が主体的に学習に取り組むよう授業改善をしていく。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	93%	89%	100%	
		家庭学習の習慣が身に付いている	91%	80%	75%	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	83%	79%	64%	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	97%			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	91%	93%	100%	食と健康に関する教育や保護者・児童への啓発、体力向上に関する取り組みを行っている結果だと考える。基本的な生活習慣については、保健便りや学校保健委員会などを通じて今後も啓発しながら、身に付けることができるようにする。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	78%	92%	83%	
		体力向上に努めている	76%	86%	92%	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	89%	90%	100%	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	95%	89%	100%	学校HPの更新頻度の増加やtetoruでの文書配信により最新情報を確実に届けられたことが評価につながっていると考えられる。しかし、育友会と地域連携については、行事の周知方法を検討しながら、児童や保護者への参加を促す。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	85%	97%	100%	
	P T A ・ 地 域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	61%	92%	77%	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100%	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	98%	80%	77%	除草作業等で校舎周辺の景観が良くなっていることが結果につながっている。しかし、校舎の老朽化は否めず、特に便所改修の要望が保護者から数件上がっているため、今後も育友会と協力しながら清掃などに努める。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			85%	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

ほとんどの項目において、児童と保護者の肯定的な割合が80パーセントを超えたことは、教職員一人一人の職務に邁進した結果であると考えられる。特に、分かりやすい授業を行っていることについては、校内研修を通してICT機器の活用を推進した授業改善を行った結果もあると考えている。

しかし、「PTAや地域連携」における児童の肯定的割合が61%だったので、育友会や地域活動における周知や活動の在り方を検討する必要があると思った。また、「組織運営」「業務改善」における教職員の肯定的割合が非常に低い。これは、校務分掌の偏りや一人当たりの業務量の多さなど要因が複雑だと考える。このことから、校務分掌の見直しやICT機器の利活用、執務時間の確保など、できることから着手し、教職員の働き甲斐を高める。

6 学校関係者評価

【確かな学力の観点から】

本校の特色である「スマイル集会」を今後も継続して、子どもたちの思考力や発信力などを培ってほしい。また、集会の内容は、学習の単元終末においてプレゼンテーションをすることで、単元を通じた学習意欲の継続が図られるし、教職員の負担も減るのではないかと意見があった。

また、話す聞く力を育てたり、本校の特色である学習者用パソコンを通じた学習と紙媒体への記述のバランスをとったりしてほしいとの要望があった。

【業務改善の観点から】

頻度が増え、困難を抱えている児童保護者対応や新しい学びを導入することで必要なICT操作などにおいて、カウンセラーや弁護士、ICT支援員の常駐をすることが業務改善につながる。業務改善につながれば、楽しく児童に向き合える教職員が増えるので、ぜひ改善してほしいと要望があった。

【児童の評価】

運動会を児童が率先して運営したり、地域住民に率先して挨拶したりでき高く評価できるという意見があった。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

本校の特色への取り組みについて評価が高かったことは、大変ありがたかった。ただし、その取り組みについて教職員の新たな負担にならないようにすることが大切であると考えられる。

業務改善については、本校の課題を洗い出しながら学校でできることに取り組んでいきたい。

挨拶を率先してできる児童が増えているものの、児童や教職員の実感が低いので、継続して取り組み、児童の評価をしていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。